

ISSN 1881 - 980X

日本科学教育学会  
Japan Society for Science Education  
発行：吉田 淳  
事務局：愛知教育大学理科教育講座 内  
URL : <http://www.jsse.jp>

2011.12.15

NO.205

# 科学教育研究レター



## 目 次

### 理事会だより

第 248 回理事会報告 ( 案 ) ..... 2

### 年会

第 36 回年会開催案内 ( 第 2 次 ) ..... 4

### 若手の会

第 36 回年会での会合 ..... 6

若手の会メーリングリストのご案内 ..... 7

### 国際交流委員会だより

海外の学会参加報告 ( 2 ) ..... 7

編集理事会だより ..... 8

### 会員の声

科学教育実践賞をいただいて ..... 9

広報委員会からのお知らせ ..... 11

日本科学教育学会第 248 回理事会報告（案）

（議事要録承認前。要点のみ参考掲載）

日 時 11月19日（土）14：00～17：00  
会 場 コクヨ品川オフィス  
出席者 会長 吉田  
理事 吉川、吉岡、小川義、坂谷内、土田  
銀島、片平、藤岡、小山、佐伯、高藤  
監事 堀、鶴岡  
幹事 平野

1. 議事要録（案）の承認

第 246 回理事会議事録（案）及び第 247 回理事会議事録（案）を承認した。

2. 第 248 回理事会までの電子会議による審議事項と審議結果（以下） 27 名の入会を承認した。

8 月 31 日までに入会を希望した 13 名を電子会議により審査した結果、全員の入会を承認（9 月 13 日）

9 月 30 日までに入会を希望した 12 名を電子会議により審査した結果、全員の入会を承認（10 月 11 日）

10 月 31 日までに入会を希望した 2 名を電子会議により審査した結果、全員の入会を承認（11 月 11 日）

3. 報告事項

1) 庶務・事務局

事務局より文書受理（刊行物送付、メール受理を含む）の報告があった。

以下の対応について報告があった。

- ・ 第 35 回定時総会の議事録署名を完了した（9 月 20 日）
- ・ 国立情報学研究所電子図書館（NII-ELS）からのアンケート調査に回答した（11 月 7 日）
- ・ くらしき作陽大学からの「20 周年記念論文集」に関する問い合わせに回答した（10 月 31 日）
- ・ 日本学術会議からの協力要請「日本学術会議 11 月 7 日開催学術フォーラムへの御出席について」に回答した（10 月 24 日）。
- ・ 日本学術会議の「東日本大震災にかかわる協力学術研究団体の活動の調査」に回答した（9 月 27 日）。

2) 機関誌編集

機関誌編集について以下のような報告があった。

新規投稿論文 27 編、査読中 28 編、掲載決定論文 4 編であり、35（4）は 12 月 10 日に予定通り刊

行する。また 37(2)では、年会のテーマと関連して教師教育に関する特集を予定(2012年9月末締め)している。

### 3) 学会賞

第35回年会発表賞の投票結果について次のような報告があった。投票数が105票、1位6票、2位5票、3位4票2名であった。投票数は昨年度から倍増した。ここ何年か6月の理事会の前に候補者の内定をしているが、発表賞のみを次回3月の理事会で決定して、早めに公表することとし、広報の方法も改善することとなった。

### 4) 支部・研究会

平成23年度の研究会の状況について、四国、九州支部が終了し、今後6支部の活動が予定されているとの報告があった。今後各支部の研究会の活性化に向けて関係者に周知するとともに、四国支部研究会において多重投稿・発表が行われたことから、各支部の研究会の投稿状況・運営状況等について把握することとなった。

支部研究会開催費の振込は随時可能で連絡在り次第行うことを確認した。

研究報告の編集は支部でPDF 研究会担当 広報の流れで行われている。

今後は8支部からさらに10支部へと活動を活性化させる

研究報告のC i N i iへの未対応の件について、状況を確認して善処する。

### 5) 調査研究・学术交流

CSERSの活動として、11月19日午前に、サイエンスアゴラにてシンポジウム「小学校理科をたのしくさせる工夫」を実施。2012年5月19日(土)に化学会館にて「小学校理科をめぐる課題」などを中心としたシンポジウムを開催する予定していること、さらに2013年度には中学校理科を取り上げる見込みであることが報告された。

会議出席に関わる経費の支出は可能なので書類を整えて請求する旨確認した。

### 6) 国際交流

HPの英文、中国語、韓国語がアップしたこと、レターに海外の国際学会の様子が掲載予定であることが報告された。

韓国で開催された東アジア科学教育学会(East-Asian Association for Science Education)2011大会にて、日本から3名の大学院生(Bernal Faustino(ジョエル・ベルナル・ファウスティノ)さん(愛媛大学)、April Daphne Floresca Hiwatig(エイプリル・ダフネ・フロレスカ・ヒワティグ)さん(愛媛大学)、吉田実久さん(東京大学))が若手研究奨励賞(Young Scholar Award)を受賞したことが報告された。

### 7) 年会企画

第35回年会開催について、例年に比較し事前申し込みが多く、事前に予稿が閲覧できたことが大きな要因ではなかったかという報告があった。

年会実行委員会提出の収支決算報告書に不備があり差し替えることになった。

年会実行委員会より学会への援助金50万円を返納し10万円を寄付する旨の報告があった。

第36回年会準備状況について、2012年8月27日~29日に東京理科大学で開催予定であり、次世代の科学力を育てるための「教員・指導者養成」をテーマとしたシンポジウムを予定していることが報告された。

### 8) 組織改革

学会の法人化に向けた検討として、他の学会・協会の状況について紹介、報告があった。今後の役

員改選も踏まえ、情報収集・整理と検討を進めることとなった。

事例報告：小川理事より、一般社団法人日本サイエンスコミュニケーション協会の設立の事例が紹介された。

#### 9) その他

来年度の役員改選に向けて、推薦候補者を選ぶ選挙対策ワーキンググループ（坂谷内、小山、小川理事）を設置することとなった。次回3月の理事会で候補者を推薦する予定である。

選挙管理委員会（猿田、片平、荻原理事）を設置することとなった。

記念論文集をつくってはどうかという意見が出された。

#### 4. 協議事項

##### 1) 退会希望者等について

退会希望者3名を承認した。

\* 現在会員数 1323 名（正会員 1235 名、学生会員 99 名）（2011 年 11 月 11 日付け）

（前回理事会：会員数 1300 名（正会員 1212 名、学生会員 88 名）2011 年 8 月 8 日付け）

##### 2) 年会企画について

年会企画委員委嘱（年会実行委員会選出の委員）として、川村会員（東京理科大学）、下村・荻原会員（三重大学）へ委員委嘱を承認した。

#### 5. 次回以降の理事会予定

第 249 回：2012 年 3 月 17 日（土）14：00～17：00 場所：コクヨ品川オフィス

第 250 回：2012 年 6 月 16 日（土）14：00～17：00 場所：コクヨ品川オフィス

## 年 会

### 第 36 回年会 開催案内（第 2 次）

#### 1. 年会テーマ：

テーマ：次世代の科学力を育てる：社会とのグラウンディングを進展させるために

趣旨：「次世代の科学力を育てる」というメインテーマは、現代の科学教育において重要課題であるため、第 33 回年会から引き継いでいます。今回の年会では、これまでの年会の成果を踏まえて、「科学力」を社会全体に根付かせること（グラウンディング）を進展させるために求められる科学教育の諸要件について議論します。

#### 2. 日程：2012 年 8 月 27 日（月）～29 日（水）（3 日間）

3. 会場：東京理科大学 神楽坂校舎  
(〒162-8601 東京都新宿区神楽坂 1-3)  
<http://www.tus.ac.jp/info/access/kagcamp.html>

4. 主催：日本科学教育学会（後援：未定）

5. 年会実行委員会：

[ 実行委員長 ] 澤田利夫（東京理科大学）

[ 実行副委員長 ] 小川正賢（東京理科大学）

[ 事務局長 ] 清水克彦（東京理科大学）

[ 年会論文集担当 ] 川村康文（東京理科大学）

[ 委員 ] 北原和夫（東京理科大学）、井上正之（東京理科大学）、武村政春（東京理科大学）、  
渡辺雄貴（首都大学東京）

6. 連絡先：〒162-8601 東京都新宿区神楽坂 1-3  
東京理科大学・理学部数学科・清水克彦研究室  
日本科学教育学会第 36 回年会実行委員会  
Tel & Fax 03-5228-8718  
[JSSE2012 \[at mark\] rs.kagu.tus.ac.jp](mailto:JSSE2012[at mark]rs.kagu.tus.ac.jp)

7. 内容：次の内容を予定しています。

#### (1) シンポジウム

テーマ：次世代の科学力を育てるための教員・指導者養成

趣旨：第 33 回年会より、「次世代の科学力を育てる」という年会のメインテーマをめぐって、シンポジウムを開催してきました。第 33 回から前回の第 35 回年会にいたるまで、学会の外部の専門家を招くことで、社会から本学会が何を期待されているかについて議論を重ねてきました。これまでの議論を発展させるべく、今回の第 36 回年会のシンポジウムでは、学会の内部の専門家に登壇頂き、今後、社会に向けて本学会が何をなすべきかについて議論します。とりわけ、今回のシンポジウムでは、「教員・指導者養成」に焦点を当て、次世代の科学力を育てるために必要となる教員・指導者養成のあり方について考察します。

#### (2) 招待講演「科学教育研究セミナー」

特定の分野でアクティブに研究を進めている先生方をお招きし、会員向けに専門的なお話を聞かせて頂く招待講演です。

昨年の学会賞受賞者でもある加藤浩（放送大学）学会員にご講演頂きます。

#### (3) 課題研究

前回の第 35 回年会と同様に、学会企画と自主企画を統合し、学会員から多様な研究テーマに関する企画を募集します。

#### (4) 年会実行委員会企画セッション

「次世代の理数力を育てる理数教育の研究(仮)」というテーマの企画を予定しています。

#### (5) 一般研究発表

例年通り、1件の発表の持ち時間は20分(発表15分、質疑5分)です。

#### (6) インタラクティブセッション

例年通り、ポスター発表もしくは実演紹介の形態で、研究内容についてインタラクティブにじっくりと語り合う場です。

#### (7) その他の企画：総会、懇親会、若手の会、各種会合など

### 8. 年会論文集の電子化

前回の第35回年会と同様に、年会論文集を電子化します。

- ・年会当日は、学会会場の見取り図、プログラムなどが掲載された「年会論文要旨集」を紙媒体で配布します。ただし、年会論文要旨集には、個々の研究の論文は掲載されていません。
- ・従来の体裁・様式を踏襲した「年会論文集」については、紙媒体での印刷・配布は行わず、電子ファイルでご提供いたします。年会当日は、年会論文集の電子ファイルを格納したUSBメモリなどの媒体を参加者の方にお配りします。

### 9. 年会企画委員会

委員長：山口悦司(神戸大学)

副委員長：加藤 浩(放送大学)、谷塚光典(信州大学)

幹事：松浦拓也(広島大学)

委員(五十音順)：青山和裕(愛知教育大学)、荻原 彰(三重大学)、加藤久恵(兵庫教育大学)、川村康文(東京理科大学)、清水克彦(東京理科大学)、下村 勉(三重大学)、大黒孝文(同志社女子大学)、寺野隆雄(東京工業大学)、茅野公穂(信州大学)、寺田光宏(岐阜聖徳学園大学)、東原貴志(上越教育大学)、二見尚之(湘南工科大学)、松崎昭雄(埼玉大学)、三崎 隆(信州大学)、森田裕介(早稲田大学)、吉川 厚(東京工業大学)、渡辺雄貴(首都大学東京)

担当理事：佐伯昭彦(鳴門教育大学)、高藤清美(筑波学院大学)

## 若手の会

### 第36回年会での会合

現在、年会企画委員会で検討を進めています。企画が決まりましたら、学会レター、年会ホームページ、メーリングリストなどでお知らせいたします。お楽しみに。

## 若手の会メーリングリストのご案内

JSSE 若手の会では、山形大学の加納寛子先生のご支援により、メーリングリストを立ち上げています(加納先生、ありがとうございます)。参加者のみなさんで相互に、国際会議、新刊案内、求人など、研究情報を交換しています。

参加をご希望される方は、下記の要領でご連絡ください。

- ・ 申込先アドレス(加納先生): *kanoh [at mark] pbd.kj.yamagata-u.ac.jp*
- ・ 件名: 科学教育学会若手の会 ML 登録希望

また、登録アドレスの変更または削除についても、必ず上記加納先生宛にご連絡くださいますようお願いいたします。

第 36 回年会「若手の会」企画担当委員

青山和裕(愛知教育大学) *kaoyama [at mark] auecc.aichi-edu.ac.jp*

加藤久恵(兵庫教育大学) *katohi [at mark] hyogo-u.ac.jp*

## 国際交流委員会だより

### 海外の学会参加報告(2) ~ ESERA2011 ~

2011 年 10 月 25~29 日、韓国の光州(Gwangju クアンジュ)に位置する朝鮮大学校(CHOSUN University)で「Lighting the world with science」というテーマで EASE(East-Asian Association for Science Education)2011 が開催されました。韓国、台湾、中国、日本、香港の 5 地域に加え、タイ、マレーシア、シンガポールほかの地域から総勢 680 名、このうち日本からは 44 名が参加しました。開会式の後の全体講演では、豪のカーティン大学(CURTIN University)の David Treagust 教授が「Why is an Understanding of Multiple Representations so Important in Learning Science?」というタイトルで、学習における多様な表現法の可能性について紹介されました。10 の招待講演ならびに招待ワークショップでは、5 地域の内外で活躍されている研究者からいろいろな科学教育研究のトレンドが紹介されました。期間中、10 の自主企画ワークショップ、141 の口頭発表、112 のポスター発表、40 のサイエンスデモが続き、会場では熱い議論が繰り広げられ、日本からは計 24 件(招待ワークショップ 1 件、自主企画ワークショップ 1 件、口頭発表 7 件、ポスター発表 13 件、サイエンスデモ 1 件、5 地域による特別セッション 1 件)の発表がありました。5 地域からの代表者によるシンポジウムでは、各地域の科学教育の強い点と弱い点が紹介され、例えば、生徒らは国際比較調査で高得点を取りながらも科学への関心が低い点や、初等科学(理科)の教師は科学のバックグラウンドの無い者が多い点が共通の特徴

として議論されました。大学院生の活躍も目立ち、日本からは大学院生の Joel Bernal Faustino (ジョエル・ベルナル・ファウステイーノ) さん (愛媛大学)、April Daphne Floresca Hiwatig (エイプリル・ダフネ・フロレスカ・ヒワティグ) さん (愛媛大学)、吉田実久さん (東京大学) (アルファベット順) が若手研究奨励賞を受賞され、ご本人らはもちろん、会場にいた日本人全員が喜んでいました。また、懇親会では、実行委員らが準備した演奏や歌、招待講演者ほか参加者も巻き込んだダンスなどが壇上で披露され、忘れられない夜となりました。次の会議は 2013 年夏に香港で開催される予定です。EASE の公式 HP は <http://new.theease.org/> です。

(滋賀大学 鈴木真理子)

## 編集理事会だより

平成 23 年 11 月 19 日 (土) 11:00~14:00、平成 23 年度第 1 回編集理事会がコクヨ品川オフィス 1 階 106 号室において開催されました。

まず、平成 23 年度第 1 回編集委員会 (平成 23 年 8 月 23 日開催) 議事録の確認と「科学教育研究」の編集状況の報告が行われました。新規投稿論文 (2011.8.12~2011.11.9) が 28 編 (和文 24 編、英文 3 編)、査読中論文 28 編 (担当編集委員による総合判定中 3 編、査読員選定中 4 編、査読中 (1 回目) 11 編、改訂稿待ち 8 編、査読中 (2 回目) 1 編、担当編集委員による総合判定中 (2 回目) 1 編)、掲載決定論文が 3 編 (研究論文 3 編 (35-4:3 編)) です。

続いて、以下の 3 点について審議と報告が行われました。

(1) 第 37 巻特集のテーマと担当者について、土田編集担当理事より報告の後、意見交換が行われました。「科学教育における教師教育に関わる理論や実践 (仮題)」というテーマで合意し、今後、編集部会において構成メンバーの検討を進めることで了承されました。

(2) 第 36、37 巻各号の巻頭言と編集後記担当者について、土田編集担当理事より報告の後、意見交換が行われました。

(3) 第 36 巻第 2 号の特集について、土田編集担当理事より編集状況の報告がなされました。投稿論文数が 10 編 (和文 8 編、英文 2 編)、招待論文が 2 編 (英文 2 編) となっています (平成 23 年 11 月 7 日現在)。この特集については 2012 年 4 月に入稿を完了し、2012 年 6 月中に発行予定です。

次回、編集理事会は平成 24 年 3 月 17 日土曜日 11:00-14:00 (会場: コクヨ品川オフィス) の予定です。



「科学教育研究」投稿状況および掲載決定状況

(平成23年11月9日 現在)

	新規投稿論文数 (編)		審査中 (編)		掲載決定論文数 (掲載号)		招待論文数 (掲載号)		掲載不可論文数	
	和文	英文	和文	英文	和文	英文	和文	英文	掲載不可	辞退
2010年 11月	5	0	20	0	0 (34-4) 2 (35-1)	0 (34-4) 0 (35-1)	0		1	0
12月	2	0	17	0	0 (34-4) 1 (35-1)	0 (34-4) 0 (35-1)	0		5	0
2011年 1月	5	0	20	0	1 (35-1) 0 (35-2)	0 (35-1) 0 (35-2)	0		2	0
2月	7	1	20	1	2 (35-1) 3 (35-2)	0 (35-1) 0 (35-2)	0		2	0
3月	9	1	16	2	6 (35-2) 0 (35-3)	0 (35-2) 0 (35-3)	0		3	0
4月	6	1	21	2	3 (35-2) 0 (35-3)	0 (35-2) 0 (35-3)	3 (35-2) 0		2	0
5月	4	0	19	0	0 (35-2) 1 (35-3)	0 (35-2) 1 (35-3)	0		3	0
6月	7	0	19	0	0 (35-2) 3 (35-3)	0 (35-2) 0 (35-3)	0		6	0
7月	5	1	17	1	2 (35-3) 0 (35-4)	0 (35-3) 0 (35-4)	0		5	0
8月	3	0	15	0	0 (35-3) 2 (35-4)	0 (35-3) 0 (35-4)	0		4	0
9月	16	2	23	2	1 (35-4) 0 (36-1)	0 (35-4) 0 (36-1)	0		7	0
10月	2	1	23	3	0 (35-4) 0 (36-1)	0 (35-4) 0 (36-1)	0		2	0
11月	3	0	25	3	0 (35-4) 0 (36-1)	0 (35-4) 0 (36-1)	0		1	0

## 会員の声

第 35 回定時総会において科学教育実践賞を受賞された加藤先生ほか 4 名の方に、本欄へ寄稿いただきました。

### 科学教育実践賞をいただいて

加藤 浩 (放送大学)  
 鈴木栄幸 (茨城大学)  
 舟生日出男 (広島大学)  
 久保田善彦 (上越教育大学)  
 平澤林太郎 (小千谷市立小千谷小学校)

第 35 回年会において、私たちが行ってきた「Kneading Board 協調学習支援システムの開発と実践」に対して科学教育実践賞をいただきました。このような栄えある賞をいただくこと

は望外の喜びであるとともに、これを機に初心に立ち戻ってさらなる発展への決意を新たにしております。ご推薦いただいた先生方、また、ご審査いただいた先生方に深く御礼申し上げます。

Kneading Board(以下、KB)はインター/イントラネットで結ばれた複数のコンピュータ間でコンセプトマップを協同作成できる協調学習のためのツールです。KBの名前は、パンやパスタの生地などをこねるときに使うこね板に由来し、その板を使ってみんなでアイデアを練り上げてもらいたいというところからその名前をつけました。KBには複数枚のコンセプトマップを複数人で同時共有できる他の学習者がどこで何をしているかを気付かせることのできるウェアネス支援機能を持つサーバーを起動しておけば非同期的にも利用できる

Web用のポートしか使用しないので、ほとんどの場合ネットワークに関する設定は変更する必要がない。JAVAで開発されているのでほとんどのOSでそのまま利用できる、などの特徴があります。

KBのプロジェクトを開始したのは2001年の科研基盤(B)「遠隔高等教育を対象とした創発的分業を支援する学習環境の開発と評価」からですが、実はそれ以前の1998年ころに、加藤と鈴木と谷川由紀子氏(NEC)がKBの原型となる学級新聞協同作成支援システムを作っていました。それは、仮想的に大きな模造紙に何人かで同時に文章や絵を書き込むことのできるものであり、当時としては画期的で、また実践的にも高く評価されていたのですが、社内で研究的に作られていたミドルウェアを使用していたため、動作が不安定で、結局日の目を見ることはありませんでした。

KBの開発を始めたのは、この学級新聞協同作成支援システムの方向性に確信を得て、それを発展させたいという思いからでした。幸い、当時まだ学生であった舟生が強力なメンバーとしてプロジェクトに加わり、開発を一手に引き受けてくれました。その過程で、対象を学級新聞からより自由度の高いコンセプトマップに変え、今のKBが誕生しました。

また、学級新聞システムの頃から漠然と持っていたCSCLシステムのデザイン原理を創発的分業という概念に昇華させ、学術的な貢献も果たすことができました。創発的分業とは次に挙げるような特徴をもつ相互行為で、それが起こるときに、まねる、やってみせる、見守るなどの足場掛けが伴うため、教育的に重要な意味を持ちます。KBはそれを促進するためのツールとして位置づけました。

分業の創発：相手が何をしているかを知った上で、自分がそれを考慮に入れた作業を始められること

分業の維持：互いに相手の作業をモニターしながら、それに応じて自分の実行している作業を調整すること

分業の再編成：互いの置かれている状況の認識に基づき、臨機応変に互いの作業の分担を変更すること

技術面でのKBの重要な転換点はKnoppixを採用してCD-ROMから直接KBサーバーを起動できるようにしたことです。KBはサーバー・クライアント型のシステムであり、インターネット上にサーバーを設定して利用してもらっていましたが、それだと肝心の授業のときに他の利用者の影響で快適に利用できる保証がありませんでした。しかし、CD-ROMから簡単にイントラネット上にKBサーバーが設置できるようになり、安定的な運用が可能になりました。

実践面では久保田が積極的に普及活動を展開し、後に平澤がそれに加わりました。その過程

では、開発者が想定もしていなかった様々な利用法が次々生み出され、また、現場からのフィードバックで KB の機能にも次々拡張が施されました。

そうするうちに活用事例が蓄積し、その中には賞を受けるような優れた実践も複数出てきました。そこで、久保田が中心となって活用事例を集め、それに CD-ROM とマニュアルもつけた小冊子を作り、無償配布することで、さらに利用が大きく広がりました。CD-ROM イメージファイルは、Web(<http://kb.code.ouj.ac.jp>)から無償でダウンロードすることもできます。

このように、多数の方々のご協力があってこの KB は成り立っています。とくに KB の可能性を見出して教育実践にご活用いただいた先生方なくしては科学教育実践賞という賞はあり得ませんでした。末筆ではありますが、たくさんの事例をお寄せいただいた、伊藤あゆみ先生、伊藤正市先生、及川 慶先生、大重志津香先生、大澤 豊先生、加瀬雄一先生、勝村和之先生、加藤 誠先生、楠本 誠先生、久保田詩子先生、小島剛史先生、斉藤敬信先生、杉崎妙子先生、竹内慎治先生、土田十司作先生、冨田俊幸先生、中村 泰先生、楡井正弥先生、野村光弘先生、長谷川春生先生、樋口英樹先生、松田啓寿先生、三志奈仁美先生、水落芳明先生、宮崎一俊先生、村野守司先生、綿引良文先生に衷心から感謝申し上げます。

### 広報委員会からのお知らせ

科学教育研究レター第 205 号をお送りいたします。お気づきの点などございましたら、学会 Web サイトにある「お問い合わせ」(Web メール)をご利用のうえ、お知らせください。

担当理事：荻原 彰(三重大)	久保田善彦(上越教育大)
委員：隅田 学(愛媛大)	土田 理(鹿児島大) 藤岡達也(上越教育大)
二見尚之(湘南工科大)	美馬のゆり(はこだて未来大)
谷塚光典(信州大)	渡辺政隆(科学技術振興機構)
幹事：茅野公穂(信州大)	福井智紀(麻布大)

科学教育研究レター編集・印刷 日本科学教育学会広報委員会

日本科学教育学会

Japan Society for Science Education

URL : <http://www.jsse.jp>

事務局 愛知教育大学 理科教育講座 内  
事務支局(入退会・会費・学会誌発送関連)

TEL : 075-415-3661 FAX : 075-415-3662

E-mail : [jsse\[at mark\]nacos.com](mailto:jsse[at mark]nacos.com)

中西印刷(株)学会部 内  
編集事務局(論文投稿・査読編集)

〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入ル

TEL : 075-415-3155 FAX : 075-417-2050

E-mail : [jsse-hen\[at mark\]nacos.com](mailto:jsse-hen[at mark]nacos.com)

中西印刷(株)学会部 内 〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入ル

郵便振替口座 : 00170-6-85183 日本科学教育学会

銀行口座 : みずほ銀行 京都中央支店 普通 2269008 日本科学教育学会